



開館一周年記念 春季特別展

『日本の染織展』開催中

— 山辺知行コレクション —



● **留袖** (絹 江戸後期)
五つ紋、手描染に刺しゅうが施され、袖と身頃上部は新しく縫い合わせている。

本館館長山辺知行氏の染織コレクションは、国内はもちろんのこと、世界各地から収集されたもので、その数とともに内容において、日本を代表する著名なものとなっています。

今回はその中から日本で収集された資料を公開しています。室町から桃山時代にかけての文様染として有名な「辻ヶ花」染の裂、華やかな舞妓の着物・帯から、庶民的な紺の着物や絞り染めの浴衣まで、その幅広さはそのまま氏の研究心の広がりを見せています。

型染めの型紙や型板の精巧な造りに、多彩な技法で染められた絞り染に、日本の染織の美しさを支えた優れた技術をみていただけたと思います。

また、描かれ、縫い取られた意匠の中に、それらを作り、まとった人々の意識を感じることができるでしょう。

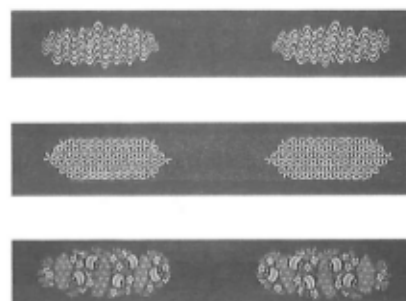
会 期 5月28日(日)まで

開館時間	午前9時～午後4時30分 (入館は4時まで)
休 館 日	毎週月曜日 (ただし、1日は開館) 第三火曜日(16日)
入 館 料	一 般 600円(420円) 高校・大学生 400円(280円) 小・中学生 200円(140円) ()内は、20名以上の団体料金

● 舞妓の半衿

(絹 明治～大正)

襦袢の衿に模様をついた半衿をつけることは、江戸時代中期ごろから行われましたが、これが最も発達したのは、明治から大正時代で、精巧な刺しゅうの施されたものが多くみられます。



ミュージアム寺子屋講座

開 講

都留市博物館「ミュージアム都留」では、市民に親しまれる博物館をめざして、本年も寺子屋講座を開講します。

初めて歴史を学ばれる方から、郷土史について詳しく研究してみたい方まで、どうぞお気軽にお申し込みください。

募集人数 各講座とも20名程度

講座内容

● 初心者のための都留歴史講座

原始時代から現代までの都留市や郡内地方のあゆみを、館内の資料を用いながら、わかりやすく解説します。

日 時 6月から10月までの
毎月第四日曜日
午前10時～正午
講 師 当館学芸員ほか

● 郷土史研究講座

・ 村絵図を歩く
江戸時代の村の姿を伝える「村絵図」と現在の町の姿を、現地を
実際に歩き、目で見て比較します。

日 時 6月から10月までの
毎月第二日曜日
午前9時30分～正午
講 師 当館学芸員ほか

・ 古文書を読む
ふるさとの文書を教材にして、

古文書の読み方を学びます。
日 時 6月から10月までの
毎月第三日曜日
午前10時～正午

講 師 棚本 安男さん

● 芭蕉月待講座

この秋開催予定の「芭蕉・旅・甲州展」に展示を予定している資料を通して、松尾芭蕉の人となりやその俳句の世界にふれます。

日 時 5月・6月・7月・
9月・10月・11月の
第四火曜日
午後6時30分～7時30分

講 師 楠元 六男さん
(都留文科大学教授)

次回企画展のお知らせ 田中蘭谷展

― 郷土の画家シリーズその3 ―
6月3日(土)～
7月30日(日)

絵甲斐絹の作家としても活躍した郷土の画家田中蘭谷の作品展。

募集受付・問合先

都留市博物館

「ミュージアム都留」

☎(45)80008
☎(45)86008